

大学院ラテンアメリカ合同ゼミ、海外事情研究所共催

岡村淳監督ドキュメンタリー作品鑑賞会

「南回帰行 橋本梧郎と水底の滝・第一部」

と き：2013年7月8日（月）15：00～17：30

ところ：講義棟 海外事情研究所 会議室（427）

講 師：岡村淳（映像作家）

『忘れられない日本人移民 ブラジルへ渡った記録映像作家の旅』（港の人、2013年）の著者でもある岡村淳監督をお招きして、上記の近作を鑑賞します。この作品は、橋本梧郎という、ブラジルへ移民した植物学者の最晩年のフィールドワークを描いたものです。一人の移民植物学者の人生とともに、史資料保存問題などブラジル日系社会が抱える課題を考えさせられる作品です。



橋本梧郎（1913-2008）

静岡県小笠町出身。静岡県立掛川中学（旧制）卒業。1934年、未知の植物を求めて、戦争が迫る日本から単身ブラジルに渡る。博物館員や学校教師として働きながら、生涯、植物標本の収集に携わる。植物標本のコレクションは15万点にもものほり、個人の所蔵としては世界最大とも言われる。『ブラジル産薬用植物事典』（1996年、第3回吉川英治文化賞）、『ブラジルの果実』（1978年）、『ブラジル植物記 身近な有用植物の知識』（1962年）などの日本語の著作の他、Classificação de Plantas e Animais do Brasil（「ブラジルの動植物分類」1970）など、ポルトガル語の著作・論文多数。日本政府より勲五等双方向旭日章。

岡村淳監督

記録映像作家。1958年東京生まれ。早稲田大学第一文学部日本史学専攻卒業。考古学を学んだ後、1982年日本映像記録センター入社。「すばらしい世界旅行」「知られざる世界」の番組ディレクターを担当し、おもに中南米を取材。1987年、フリーランスとなりブラジルに移住。1997年から自主制作のドキュメンタリー作りを始める。ブラジルの日本人移民、そして社会・環境問題をテーマとした映像作品の制作を継続中。近年の作品に「あもーる あもれいら」（全3部）「サルヴァドールの水彩画」「リオ フクシマ」など。「ひとりでもご覧になりたい方がいればおうかがいする」という方針で、これまで日本、ブラジル、台湾、アメリカ、オランダなどでライブ上映会を実施。